

県立高校入試改善検討委員会（第1回）

令和3年7月13日（火）

14：00～16：00

岩手県公会堂 21号室

次 第

- 1 開 会
- 2 岩手県教育委員会あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 委員長及び副委員長の選出
- 5 議 題
 - (1) 設置要綱、現行の入試制度の概要について
 - (2) 岩手県立高等学校入学者選抜に関する調査結果について
 - (3) 県立高校入試改善の論点（たたき台）について
 - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

【別冊資料】

- 1 現行の入試制度の概要
- 2 岩手県立高等学校入学者選抜に関する調査結果
- 3 県立高校入試改善の論点（たたき台）
- 4 今後の予定

【参考資料】

- ・令和3年度岩手県立高等学校入学者選抜実施要項
- ・平成27年度以降の県立高校入試の改善について（提言）
(平成23年12月12日 県立高校入試改善検討委員会)
- ・県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方について（報告）
(平成30年8月9日 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議)
- ・岩手県教育振興計画の概要
- ・新たな県立高等学校再編計画後期計画の概要

県立高校入試改善検討委員会設置要綱

(設置)

第1 社会や生徒の変化に対応するとともに各県立高校の教育活動の充実に向けたより良い入学者選抜制度について在り方を含め検討するため、県立高校入試改善検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に提言を行う。

- (1) 入学者選抜における選考方法、日程
- (2) 各県立高等学校各学科の特色を生かした選抜方法
- (3) 入学者選抜における事務処理方法
- (4) その他県立高校入学者選抜に係る事項

(組織)

第3 委員会は、委員16名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 産業界等関係者
- (3) 県立学校及び中学校関係者
- (4) P T A関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

(任期)

第4 委員の任期は、2年以内とする。

(委員長、副委員長)

第5 委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員長が指名する。
- 4 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議の招集)

第6 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

(庶務)

第7 委員会の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校教育室において処理する。

附 則

この要綱は、令和3年7月13日から令和4年12月31日まで施行する。

県立高校入試改善検討委員会 委員

No.	所属・役職	氏名
1	富士大学入試部長	佐々木 修一
2	岩手大学人文社会科学部教授	浅沼 道成
3	岩手県産業教育振興会会長 株式会社IBC岩手放送代表取締役社長	鎌田 英樹
4	県北ものづくり産業ネットワーク代表 株式会社東亜エレクトロニクス代表取締役社長	小山田 紳也
5	認定NPO法人カタリバ代表理事	今村 久美
6	岩手県高等学校長協会会長 盛岡第一高等学校長	梅津 久仁宏
7	黒沢尻工業高等学校長	千葉 治
8	杜陵高等学校長	高橋 正浩
9	岩手県中学校長会会長 盛岡市立下橋中学校長	松葉 覚
10	岩手県中学校体育連盟会長 盛岡市立下小路中学校長	橋場 中士
11	岩手県PTA連合会会長	岩館 智子
12	岩手県高等学校PTA連合会会長	大柏 良
13	岩手県教職員組合中央執行副委員長	八重樫 千晶
14	岩手県高等学校教職員組合書記長	村上 智加子
15	岩手県市町村教育委員会協議会会長 盛岡市教育委員会教育長	千葉 仁一
16	陸前高田市教育委員会教育長	山田市 雄

事務局

No.	所属・役職	氏 名
1	教育長	佐 藤 博
2	教育局長	佐 藤 一 男
3	教育次長兼学校教育室長	高 橋 一 佳
4	学校教育室 学校教育企画監	中 川 覚 敬
5	学校教育室 首席指導主事兼義務教育課長	三 浦 隆
6	学校教育室 首席指導主事兼高校教育課長	須 川 和 紀
7	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	高 橋 直 樹
8	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	菊 地 健
9	学校教育室 高校教育担当 指導主事	川 原 恵理子
10	学校教育室 高校教育担当 指導主事	小 原 博

【別冊資料】

- I 現行の入試制度の概要（資料1）（P. 1～10）
- II 岩手県立高等学校入試に関する調査の結果（資料2）（P. 11～22）
- III 県立高校入試改善の論点（たたき台）（資料3）（P. 23）
- IV 今後の予定（資料4）（P. 24）

I 現行の入試制度の概要

1 入試制度の変遷

現行の入試制度は、平成 16 年度から「生徒一人ひとりが、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校が選択できること、また、各高校が特色づくりを進めてその特色にふさわしい生徒を選抜し生徒の成長を支援することという二つの基本的視点から、選抜方法の多様化と評価尺度の多元化の改善を目指した」という趣旨で実施している。

また、県立高校入試改善検討委員会は、平成 17～18 年度及び平成 22～23 年度の 2 度設置されている。委員会において検討された入試改善の方向性は、「平成 19 年度以降の県立高校入試の改善について（提言）」（平成 18 年 6 月 1 日）、「平成 27 年度以降の県立高校入試の改善について（提言）」（平成 23 年 12 月 12 日）として県教育委員会に提言を行ってきており、県教育委員会では、平成 18 年 6 月 1 日の提言に基づく改善を平成 19 年度入試から、平成 23 年 12 月 12 日の提言に基づく改善を平成 28 年度入試から行っているところである。

平成 29～30 年度には「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議」が設置され、会議の報告「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方について【報告】」（平成 30 年 8 月 9 日）に基づいた改善を令和 2 年度入試から行っている。

【平成 16 年度からの入試】

- ・学力検査と調査書や面接等とを異なる尺度により評価する多元化総合選抜の導入。
（従来の推薦入試の廃止）
- ・面接で活用するために、自己アピールカードを作成。
- ・入試日程を 1 週間程度早める。
- ・学区の広域化。

【提言及び報告の内容】

提言・報告年	内 容
H18 H19 入試から反映	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、文化芸術等において顕著な成績を収めた者を対象とした推薦入試の実施。 ・通学区域は、当面 8 学区のまま。 ・理数科のくくり募集。
H23 H28 入試から反映	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試の応募資格に、「将来の職業に生かそうという目的意識をもって入学を希望する者」も追加。 ・推薦入試合格後の学習意欲向上のため、推薦合格者を対象とした学力調査の実施。 ・推薦入試の時期繰り下げ（スキー及びスケート大会の日程の都合から実現できていない。） ・一般入試における A B C 選考について、各高等学校の裁量拡大。 ・一般入試における調査書換算点に中学 1 年の評定を追加。 ・定時制課程において成人枠の導入。 ・再募集の名称を「二次募集」に変更。
H30 R 2 入試から反映	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の育成やふるさと振興の視点から、県内生徒の学ぶ機会の確保に配慮した上で、県外からの入学志願者受入れの実施。 ・学区は当面維持する。

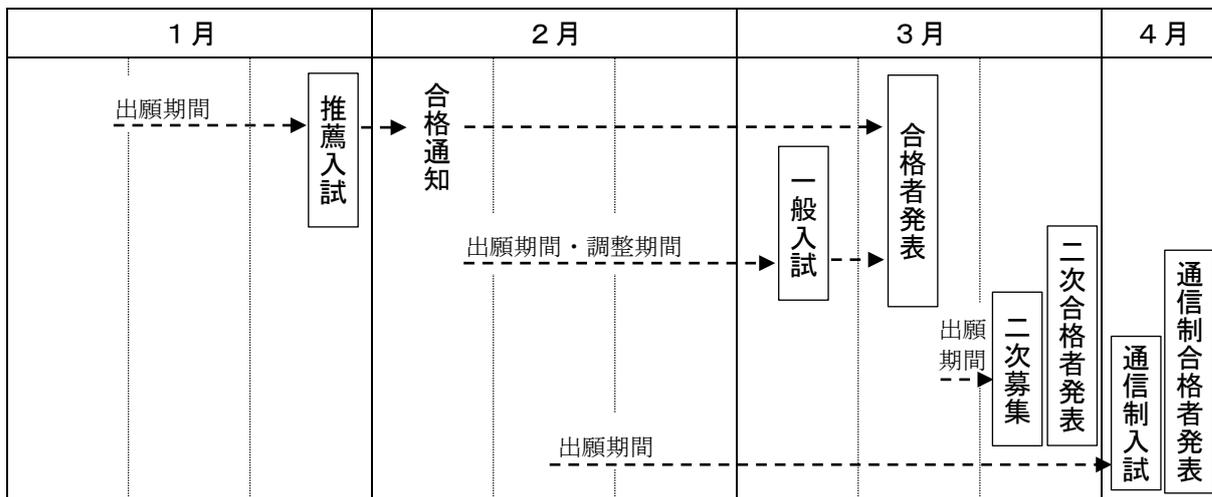
2 中学校卒業生数、志願者数（全日制）、合格者数（全日制）の推移（過去5年）

入試年度 (実施年月)	中学校卒業生数	募集定員 (全日制)	合格者数 (全日制)	一般入試志願倍率 (全日制)
平成 29 (H29. 3)	11, 927	10, 120	8, 673	0. 92
平成 30 (H30. 3)	11, 379	9, 800	8, 474	0. 90
平成 31 (H31. 3)	11, 138	9, 440	8, 044	0. 89
令和 2 (R2. 3)	10, 677	8, 960	7, 491	0. 87
令和 3 (R3. 3)	10, 083 (見込み数)	8, 960	7, 194	0. 82

※一般入試志願倍率（全日制）は、平成 27 年度入試以降 1 倍を下回っており、低下傾向。

※令和 8 年 3 月の中学校卒業予定者数見込み 9, 655 名。

3 現在の入試制度の概要



(1) 推薦入試

検査日… 1月下旬、合格者への通知…検査の約1週間後

ア 対象学科

全日制・定時制の全学科において実施できる。

イ 応募資格

- ・ 県内中学校を卒業見込みの者、前年度卒業者

ただし、種市高等学校海洋開発科を志願する場合は、県外中学校を卒業見込みの者、前年度卒業者を含む。

- ・ 次の応募資格 A 又は応募資格 B に該当する者

応募資格 A スポーツ、文化・芸術、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動等）において顕著な実績を持つ者

応募資格 B 将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者

- ・ 当該高等学校の示す推薦基準を満たしている者（各高等学校の推薦基準（抜粋）は、P. 7～10）

ウ 募集定員

- ・定員の10%以内。
- ・体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系、芸術学系は50%以内。
- ・専門学科及び総合学科のうち、応募資格A及び応募資格Bの両方で募集する学科で、農業に関する学科は20%以内、農業以外の学科は15%以内。
- ・県のスポーツ特別強化指定校においては、指定競技に係る人数を含める。

エ 通学区域

学区の制限を受けない。(岩手県立高等学校の通学区域に関する規則)

オ 検査内容

- ・調査書、志願理由書、面接
- ・高等学校によっては、小論文又は作文、適性検査を実施することができる。

カ 選抜方法

各学科の選抜方法により行う。(各高等学校の選抜方法(抜粋)は、P.7~10)

キ 合格者を対象とする学力調査を、一般入試検査日に実施する。

(2) 一般入試

検査日…3月上旬、追検査日…検査日の約5日後、合格者発表…追検査日の約2日後

ア 検査内容

- ・学力検査(国語、数学、社会、英語、理科)、面接、調査書
- ・高等学校によっては、小論文又は作文、適性検査(実技等)を実施する。

イ 学力検査の出題方針

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標や内容に則し、基礎的・基本的な知識及び技能や、これらを活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を検査できるようにする。

ウ 各検査の配点

学力検査(5教科各100点満点)	500点		1000点
調査書(9教科の1・2・3年の評定)	440点	500点	
面接、小論文又は作文、適性検査(実技等)の合計	60点		

エ 選抜方法

- ・以下の【A選考】、【B選考】、【C選考】により選考を行うこととする。

	「学力検査の成績」 : 「調査書(9教科の評定)、面接、小論文又は作文、適性検査」
A選考	5 : 5
B選考	3 : 7
C選考	7 : 3

- ・【A選考】、【B選考】、【C選考】による選考方法については、各高等学校長が次の表の7通りの中から選択・決定することとする。なお、選考にあたっては 選考Ⅰ → 選考Ⅱ → 選考Ⅲ の順で行うこととする。

選抜方法	選考Ⅰ	選考Ⅱ	選考Ⅲ
①	A選考 100%		
②	A選考 70%	B選考 30%	
③	A選考 70%	B選考 20%	C選考 10%

④	A選考 70%	B選考 10%	C選考 20%
⑤	A選考 70%	C選考 30%	
⑥	A選考 70%	C選考 20%	B選考 10%
⑦	A選考 70%	C選考 10%	B選考 20%

オ 追検査

- ・インフルエンザ等により検査日の検査（以下「本検査」という。）を受検できない者を対象に実施する。
- ・検査内容は、本検査と同じ。ただし、学力検査、小論文又は作文は、追検査用に用意したもので行う。
- ・本検査と追検査の成績は同等に扱い、本検査を受検した者と追検査を受検した者を一括して選抜する。

(3) 一般入試（定時制課程成人枠）

検査日、合格者発表…一般入試と同じ

ア 対象学科

定時制の全学科

イ 応募資格

入学時に満 21 歳以上の者

ウ 募集人数

若干名

エ 検査内容

- ・面接、作文又は小論文
- ・高等学校によっては、適性検査を実施することができる。

(4) 二次募集

検査日… 3 月下旬、合格者発表…検査日の 2 日後

ア 対象学科

欠員が定員の 10%以上である学科

ただし、欠員が定員の 10%未満でも、学校の判断で実施することができる。

イ 応募資格

一般入試（定時制課程成人枠含む）、連携型入試、盛岡市立高等学校一般入試を受検し、合格しなかった者

ウ 検査内容

調査書、面接、小論文又は作文

(5) 連携型入試（葛巻、軽米高等学校）

検査日、合格者発表…一般入試と同じ

ア 応募資格

- ・葛巻高等学校においては葛巻町立葛巻、小屋瀬、江刈中学校を卒業する見込みの者
- ・軽米高等学校においては軽米町立軽米中学校を卒業する見込みの者

イ 選抜方法

国語、数学、社会、英語、理科の 5 教科に関する基礎学力を確認のうえ、連携型中学校長から提出された調査書及び面接の結果に基づき合格者を決定する。

なお、基礎学力の確認は、一般入試学力検査の検査問題で実施する。

(6) 一関第一高等学校附属中学校（併設型中高一貫教育校）からの入学

一関第一高等学校附属中学校の生徒で一関第一高等学校（全日制課程）に入学を希望する者は入学願を提出する。

入学願を提出した者については、入学者選抜を行わずに入学を決定する。

(7) 杜陵高等学校定時制入試（杜陵高等学校本校、奥州校、宮古高等学校）

前期：検査日、合格者発表…一般入試と同じ

後期：検査日、合格者発表…二次募集と同じ

ア 募集人数

前期と後期で分けて募集する。

イ 検査内容

前期：学力検査（一般入試と同じ）、面接、調査書

後期：作文、面接、調査書

ウ 一般入試、杜陵定時制前期に出願していなくても、後期に出願できる。

(8) 通信制入試（杜陵高等学校本校、奥州校、宮古高等学校）

入学選考日…4月上旬、合格者発表…入学選考日の約2日後

選考は、志願者の提出書類、作文、面接によって行う。

(9) 県外からの志願者受入れ

ア 実施方針

次の（ア）～（ウ）の全てに該当する全日制・定時制の学科において、県教育委員会と協議した上で、一般入試において実施する。

（ア）地域人材の育成やふるさと振興の視点から、学校と地域が連携する体制が整っている学科

（イ）入学後の居住環境について紹介できる体制が整っている学科

（ウ）県内生徒の学ぶ機会を妨げないと考えられる学科

イ 通学区域の取扱い

（ア）普通科への志願を承認された者は、学区外の志願者として扱う。

（イ）普通科以外の学科への志願を承認された者は、「県外」（普通科の学区外での取扱いに準じる）の志願者として扱う。

ウ 実施校

学校	学 科	募集人数	対象となる入学者選抜
沼宮内	普通科	8名	令和4～6年度
平舘	普通科、家政科学科	各4名	令和2～4年度
住田	普通科	4名	
遠野	普通科	3名	
遠野緑峰	生産技術科、情報処理科	各4名	
大槌	普通科	8名	
宮古水産	海洋生産科、食物科	各4名	令和4～6年度
伊保内	普通科	4名	令和3～5年度
一戸	総合学科	5名	

エ 特例として県外からの志願者の受入れを実施する学校

特例として、入学者数の制限を設けずに、県外からの志願者の受入れを実施する学校への志願の取扱いについては、次のとおりとする。

学校名	学 科	対象者
水沢農業	農業科学科	学校設定科目「馬学」の履修を希望する者
種市	海洋開発科	志願者全て
葛巻	普通科	「くずまき山村留学生」の候補者
大迫	普通科	「高校生おおはさま留学生」の候補者
西和賀	普通科	「西和賀地域みらい留学生」の候補者

なお、志願が承認された者は、学区内の志願者として扱う。

学校番号	学 校 名	課 程
3	盛岡第三高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	280名
募集定員	10% (28名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たしている者</p> <p>1 学習成績・人物ともに優れ、本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 体育活動で全県トップレベルの活躍が期待できる実績や能力を有し(1)～(5)のいずれかに該当している者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(5)は応募資格Aに該当する。</p> <p>(1) 団体競技(陸上競技(男女)、新体操(女)、バスケットボール(男女)、軟式野球(男)、バレーボール(男女))において、2～3年次に、中体連主催大会(県新人大会または県中総体)または県選抜大会において、先発メンバーとして常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者であり、ベスト8以上の成績を収めた者 ※陸上競技はリレー種目と駅伝が該当</p> <p>(2) 個人競技(陸上競技(男女)、新体操(女))において、2～3年次に、中体連主催大会(県新人大会または県中総体)に出場し、ベスト8以上の成績を収めた者</p> <p>(3) 下記に示す競技において、2～3年次に、次のいずれかの成績を収めた者</p> <p>ア 野球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「全日本少年軟式野球大会岩手県予選」または「岩手県中学生KB野球選手権大会」(令和2年8月8日開催)に、先発メンバーとして常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者で、ベスト8以上の成績を収めた者 ・ 「リトルシニア春季東北大会」または「リトルシニア日本選手権東北大会」に、先発メンバーとして常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者 <p>イ 陸上競技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「全日本中学校通信陸上競技大会岩手県大会」に出場し、ベスト8以上の成績を収めた者 <p>ウ 新体操(女)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「岩手県ジュニア新体操選手権大会」に出場し、団体または個人でベスト8以上の成績を収めた者 ・ 「全日本ジュニア新体操選手権東北ブロック予選会」に出場した者 <p>(4) バスケットボール、バレーボール、軟式野球競技において、2～3年次に、次のいずれかの項目に該当した者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北大会以上の大会出場を目的として、各競技協会が認定する県の選抜選手に指名された者、またはその選抜候補選手(最終選考会に参加した者に限る)に指名された者 <p>(5) 「いわてスーパーキッズ」に認定されプログラム終了見込みの者のうち、岩手県高体連強化拠点校に指定されているボート競技(女)に取り組む意志のある者</p> <p>3 入学後、以下の運動部のいずれかに所属し、3年間継続して意欲的に活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 【陸上競技(男女)、★新体操(女)、バスケットボール(男女)、硬式野球(男)、バレーボール(男女)、★ボート(女)】 ★は岩手県高体連強化拠点校指定の部</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 個人面接(12分)</p> <p>2 小論文 600字(50分)</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書(100点) 「各教科の学習の記録」1・2年の5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の評定合計(各25点) + 3年の5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の評定合計の2倍(50点)</p> <p>2 実績(100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接(60点)</p> <p>4 小論文(40点)</p> <p><合計 300点> ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
9	盛岡農業高等学校	全日制

学科名	全学科（動物科学科、植物科学科、食品科学科、人間科学科、環境科学科）	定 員	各科40名
募集定員	各科20%（各科8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件を満たした上で、6の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者 2 基本的な生活習慣が身につけている者 3 志望理由が明確かつ適切である者 4 入学後も学業や学校生活を意欲的に取り組む者 5 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者 6 次のいずれかに該当する者 <p><u>なお、(1)は応募資格A、(2)は応募資格Bに該当する。</u></p> <p>(1) 以下のいずれかの条件に該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 ア 中学校体育連盟等が主催する県大会に選手として出場した者、もしくは地区大会の上位（団体ベスト4、個人ベスト8以上）の成績を収めた者 イ 岩手県大会以上において優秀選手・選抜選手に選ばれた者、またはそれに準ずる者 ウ 中学校文化連盟等が主催する県大会以上に出場した者 エ 岩手県スポーツ特別強化指定、または、高体連強化拠点校指定を受けている運動部〔スケート（男女）、相撲（男）、自転車競技（男）〕を希望する者 オ 「いわてスーパーキッズ」に認定されている者</p> <p>(2) 以下のいずれかの条件に該当し、志望学科に対する目的意識が極めて明確な者 ア 将来、農業の後継者となる強い意志がある者 イ 将来、学科関連分野の進学または就職をしようとする強い意志がある者 ウ 各学科の学習内容に興味関心が高く、探究しようとする強い意志がある者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接 個人面接（15分） 2 作文 提示されたテーマについて、600字以内で自分の考えをまとめる（50分） 		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2年の9教科の評定の合計各45点と、2倍した3年の9教科の評定90点の合計180点を100点に換算） 2 実績（120点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績 3 面接（120点） 4 作文（60点） <p><合計 400点> ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
34	岩谷堂高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	160名
募集定員	15% (24名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者 2 基本的な生活習慣が身に付いている者 3 中学校3年間の欠席日数の合計が10日以下の者。ただし、やむを得ない理由があるときはこの限りではないため、その理由を明記すること 4 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な学校生活を送ることが期待され、次のいずれかに該当する者 ただし、(1)～(4)について、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格A、(5)は応募資格Bに該当する。</u> <p>(1) ウエイトリフティング部（岩手県スポーツ特別強化指定）への入部を希望し、新体力テストの成績がA段階の者</p> <p>(2) 鹿踊部への入部を希望し、現在、継続的に郷土芸能の活動をしている者</p> <p>(3) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、地区大会で3位以上の成績を収めた者又はそれと同等の実力があると認められる者</p> <p>(4) 文化・芸術活動において、発表会・コンクール等で顕著な活動が認められる者</p> <p>(5) 将来の職業が明確で、本校の各系列で学習した内容を生かして、進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p> <p><本校の系列> 人文科学、自然科学、生物生産、産業工学、流通情報、生活・福祉</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接 (1) 一次（個人面接 10分） (2) 二次（個人面接 10分） 2 作文 提示されたテーマについて、600字以上800字以内で自分の考えをまとめる（50分） 		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）と3年の9教科の評定合計の2倍（90点）の合計180点を100点に圧縮 2 実績（200点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容 3 面接（100点） 4 作文（100点） <p><合計 500点> ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
50	宮古北高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件をすべて満たした者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者 2 基本的な生活習慣が身に付いている者 3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者 4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者 5 スポーツ・文化・芸術・生徒会・ボランティア・郷土芸能等の活動に意欲的に取り組んだ者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <p><u>なお、5は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接 (1) 一次（個人面接 10分） (2) 二次（個人面接 10分） 2 作文 提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる（50分） 		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点） 2 面接（120点） 3 作文（100点） <p><合計 400点> ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

Ⅱ 岩手県立高等学校入試に関する調査の結果

現行の入試制度の課題点等を把握するため、令和3年6月に県内公立中学校長及び県立高等学校長を対象にアンケート調査を実施し、中学校は約9割、県立高等学校はほぼ全校の回答を得た。

【アンケート方法】

- ・各質問項目に対して、「現在のままでよい」又は「変更すべき」のいずれかを選択する。
- ・「変更すべき」の場合は「理由」、「変更内容」を記入する。

【質問項目、「変更すべき」の割合】

質 問 項 目	「変更すべき」の割合 (%)	
	中学校	高等学校
1 入試日程		
(1) 推薦入試の検査日	4.4	10.8
(2) 一般入試の検査日	11.9	18.5
(3) 二次募集の検査日	20.9	24.6
(4) その他	13.3	12.3
2 推薦入試		
(1) どのような視点で選抜を実施するべきだと考えるか	27.4	21.5
(2) 応募資格 A、B	21.5	23.1
(3) 応募資格 Aに係る各高等学校が示す推薦基準	27.4	18.5
(4) 「中学校長が被推薦者を決定する」としていること	23.7	12.3
(5) 検査内容	8.8	12.3
3 一般入試		
(1) どのような視点で選抜を実施するべきだと考えるか	7.4	4.6
(2) 学力検査	1.5	3.1
(3) 面接	30.4	33.8
(4) 小論文又は作文	7.5	7.8
(5) 調査書換算点	12.6	9.2
(6) 選抜方法	10.4	12.3
4 二次募集 (高等学校のみ)	—	7.7
5 その他		
現行の入試制度において変更すべきこと、入試改善を行う上で重要と考える視点等について自由記述。		

【アンケート結果 (概要)】

- ・全質問項目において、「現在のままでよい」の割合が、「変更すべき」の割合より大きかった。
- ・入試日程については、二次募集の検査日について「変更すべき」の割合が大きかった。
- ・推薦入試については、全般的に「変更すべき」の割合が大きかった。
- ・一般入試については、面接について「変更すべき」の割合が大きかった。

【アンケート結果（詳細）】

1 入試日程

(1) 推薦入試の検査日

（現行では、1月下旬（R2入試…1/28（火）、R3入試…1/27（水））

- ・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	129 (95.6%)	58 (89.2%)
変更すべき	6 (4.4%)	7 (10.8%)

- ・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始に志願者、中学校が出願準備を行うこととなることを避けるため、2月上旬に実施すべき。(2) ・分かりやすくするため、曜日等を固定すべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入、多くの学科での定員割れ、高等学校でのスクールポリシー策定等の状況の変化に対応するため、廃止も含めて見直すべき。(5) ・廃止し、全員が学力検査を受けるように改変するべき。

(2) 一般入試の検査日

（現行では、3月上旬（R2入試…3/6（金）、R3入試…3/9（火））

- ・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	119 (88.1%)	53 (81.5%)
変更すべき	16 (11.9%)	12 (18.5%)

- ・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の授業の関係、学校行事の都合から、遅くするべき。(8) ・二次募集の日程を早めるために、早くするべき。(8)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・3月末の日程が窮屈なため、早めるべき。(10) ・毎年度、学校行事との調整に苦慮しているため、日や曜日を固定すべき。 ・前期、後期入試とするための検討をすべき。

(3) 二次募集の検査日

（現行では、3月下旬（R2入試…3/25（水）、R3入試（当初）…3/24（水））

- ・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	106 (79.1%)	49 (75.4%)
変更すべき	28 (20.9%)	16 (24.6%)

- ・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の日程が窮屈なため、早めるべき。(28)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の日程が窮屈なため、早めるべき。(16)

(4) その他

- ・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	117 (86.7%)	57 (87.7%)
変更すべき	18 (13.3%)	8 (12.3%)

- ・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・入試日程を早めるべき。(12) ・一般入試について、面接のみを学力検査の翌日に行うべき。 ・推薦入試の抜本的な見直し等により全体の日程を検討すべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・入試日程を早めるべき。(3) ・検査日を繰り上げるために、出願期間等を短縮すべき。 ・入試に係る期間を短縮して在校生が登校できる日を増やすべき。

2 推薦入試

- (1) どのような視点で選抜を実施するべきだと考えるか。

〔 現行では、県立高等学校における特色ある学校づくりの推進のため、また、生徒の多様な在り方に対応した多様な評価による選抜を実現するために行っている。 〕

- ・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	98 (72.6%)	49 (75.3%)
変更すべき	37 (27.4%)	14 (21.5%)
無回答	0	2 (3.1%)

- ・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面での基準、校外活動を中学校で評価することへの矛盾などから、廃止、又は、自己推薦とすべき。(13) ・推薦基準が部活動実績に偏っており、教育課程外の活動である部活動を推薦基準とするのは適切ではないため、廃止すべき、又は、評定基準を設けたり、自己推薦とすべき。(12) ・学力検査を行わない選抜は適当でないため、抜本的に検討すべき。(4) ・高等学校の特色化のためならば、前期、後期として、特色化入試を行うべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校への受検者確保等のため、応募資格、募集定員等の学校裁量を拡大すべき。(4) ・高等学校での部活動加入が任意であることから部活動実績を評価することに疑問があるため、廃止すべき、一般入試のB選考と一本化すべき、又は、応募資格を見直すべき。(3) ・推薦合格者が勉強に苦慮し、部活動に支障が出るケースが見られるため、教科の検査を必ず行うこととするべき。(2) ・今後策定する各高等学校の入学生受入れ方針を反映させるため、現行制度を廃止し、各高等学校が求める生徒像を重視した選抜とすべき。(2)

	<ul style="list-style-type: none"> ・抜本的な検討を行うため、一般入試の在り方とあわせて検討すべき。 ・推薦入試受検者のみ複数回受検が可能なのは不公平であるため、推薦入試を廃止し、一般入試の中に「特色化枠」を設けるべき。 ・現在の制度では受検者の多様な良さを評価できていないため、全受検者に学力検査を課し、前期・後期で実施するべき。
--	--

(2) 応募資格 A、B

現行では次のとおり。

応募資格 A：スポーツ、文化・芸術、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動等）において顕著な実績を持つ者

応募資格 B：将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	106 (78.5%)	48 (73.8%)
変更すべき	29 (21.5%)	15 (23.1%)
無回答	0	2 (3.1%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・応募資格 B は基準が不明確で、どうとらえればよいか分かりづらいため、廃止すべき、又は、基準を明確にすべき。(9)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・応募資格 A は異なる競技や活動で公平な評価が困難であり、応募資格 B を客観的に評価することは困難であるため、応募資格 A は県で統一し、応募資格 B は廃止すべき、又は、応募資格 B について基準を設けるべき。応募資格 A・B の両方を満たすこととすべき。(3) ・部活動の在り方が変化した現状から、部活動実績を応募資格 A から削除すべき。(2) ・抜本的に見直すため、部活動の在り方とあわせて考えるべき。

(3) 応募資格 A に係る各高等学校が示す推薦基準について

現行では次のとおり。

- ・スポーツ、文化・芸術等については、一定以上の大会出場実績、団体種目ではレギュラーであったこと等
- ・生徒会活動については、生徒会役員や各種委員長を務めたこと等
- ・ボランティア活動については、継続的に行った実績等

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	97 (71.9%)	51 (78.4%)
変更すべき	37 (27.4%)	12 (18.5%)
無回答	1 (0.7%)	2 (3.1%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校が大会実績を基準としていることが、中学校の部活動を勝利至上主義としている面もあり、部活動の在り方が見直される状況から、廃止すべき。(10) ・基準があいまいな高等学校もあるため、基準を県で統一したりし、より明確に示すべき。(6) ・競技生徒数の減少から多くの生徒が推薦基準を満たしてしまっており、「顕著な成績」という表現に合致しないため、各校の基準を見直すべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入が任意である現状での継続は難しいため、廃止又は見直すべき。

(4) 「中学校長が被推薦者を決定する」としていることについて

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	103 (76.3%)	54 (83.1%)
変更すべき	32 (23.7%)	8 (12.3%)
無回答	0	3 (4.6%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校の教育を受けるに足る能力」という基準が必ずあるが、そのとらえ方が難しく、あいまいな表現の推薦基準については中学校によって対応が異なるため、廃止すべき。(14) ・志望校を生徒が主体的に選択するという観点から、廃止すべき。(11) ・学校外の活動をもとに中学校長が推薦することについて矛盾を感じることから、廃止すべき。(5)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ごとに推薦基準が異なることは公平ではないため、自己推薦とすべき。 ・総合型選抜を実施するならば、自己推薦とすべき。

(5) 検査内容

（現行では次のとおり。）

- ・調査書、志願理由書、面接
- ・高等学校によっては小論文又は作文、適性検査を実施できる。

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	122 (90.4%)	55 (84.6%)
変更すべき	12 (8.8%)	8 (12.3%)
無回答	1 (0.7%)	2 (3.1%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試志願者のうち、国語、数学、社会、理科、英語の学力を軽視してしまうケースがあるため、学力検査を行うべき。(5) ・過去の検査をもとに対策を行うことができる受検生とできない受検生の格差解消のため、検査方法の周知方法などを見直すべき。
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書に得点化されない項目を削除すべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の学力を検査する必要があると考えるため、適性検査において教科の検査を実施できるようにすべき。(2) ・面接や志願理由書については、中学校での指導が行き届いているため、受検生の実態が検査時に判断できないため、面接の実施は学校判断とすべき。

3 一般入試

(1) どのような視点で選抜を実施すべきか。

(現行では、一般入試においても多様な評価による選抜を実現できるようにしている。)

・回答の数 (割合)

	中学校	高等学校
現在のままでよい	125 (92.6%)	62 (95.4%)
変更すべき	10 (7.4%)	3 (4.6%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・より多様な評価を行うため、現在よりも多様な検査を行うべき。(3) ・面接指導が中学校の負担となっていることから、面接は廃止すべき。(2) ・国語、数学、社会、理科、英語の学力を重視するために、調査書の配点を低くするべき。(2) ・多様な背景を持つ生徒の受検に配慮するため、外国人生徒枠などがあるべき。 ・ABC選考は分かりづらく、1倍を超えないと機能しないため、簡素なものにするべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・特色化枠を設けるべきで、特色化枠の内容は学校判断とするべき。

(2) 学力検査

(現行では、5教科(国語、数学、社会、英語、理科)各100点、50分)

・回答の数 (割合)

	中学校	高等学校
現在のままでよい	133 (98.5%)	63 (96.9%)
変更すべき	2 (1.5%)	2 (3.1%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度が高いため、基本、応用と2種類の問題があるべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・対策が容易にできる問題であるため、基本中心、応用中心の2種類を作成し、どちらを選ぶか学校判断とすべき。 ・思考力・判断力・表現力等を評価するためには各教科とも時間が短いため、5分長くすべき。

(3) 面接

現行では、次のとおり。

- ・ 受検者全員に実施
- ・ 調査書、自己アピールカードを活用
- ・ 各高等学校ごとに集団面接又は個人面接

- ・ 回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	94 (69.6%)	43 (66.2%)
変更すべき	41 (30.4%)	22 (33.8%)

- ・ 「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己アピールカードの作成指導が中学校の負担となっており、負担に見合った面接が行われていないと感じるため、面接の廃止、自己アピールカードの廃止、又は自己アピールカードを当日記入するなど見直すべき。(26) ・ 面接で十分なため、自己アピールカードを廃止すべき。(9) ・ 受検者の志望動機を確認することは必要と考えられるため、リモートでも面接を実施するべき。(2)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人当たりの面接時間は3分程度であり、受検生は周到に準備して臨むため、評価に差が出ない現状である。また、面接室ごとの公平性確保が難しいこともあり、感染症対策の観点からも、廃止、実施を学校判断、実施しても得点化しない、自己アピールカードの廃止など行うべき。(21) ・ 調査書、自己アピールカードで受検生を把握できるため、廃止すべき。

(4) 小論文又は作文

(現行では学科によっては実施できるとしている(R2入試、R3入試は実施学科なし。))

- ・ 回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	124 (92.5%)	59 (92.2%)
変更すべき	10 (7.5%)	5 (7.8%)

- ・ 「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文指導を行っているが実施学科がないため、負担軽減のためにも、廃止すべき。(9) ・ 多様な評価を行うため、実施すべき。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施学科がなく、他の検査で十分と考えられることから、廃止すべき。(5)

(5) 調査書換算点

現行では、次の例（評定がすべて5の場合）のように学習の記録の評定を換算している。

教科名	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技・家	小計	合計	
調査書	1年	10	10	10	10	10	15	15	15	15	110	660点 ↓ 440点に圧縮
	2年	20	20	20	20	20	30	30	30	30	220	
	3年	30	30	30	30	30	45	45	45	45	330	

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	118 (87.4%)	59 (90.8%)
変更すべき	17 (12.6%)	6 (9.2%)

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすくするため、圧縮しない計算方法を考えるなど見直すべき。(9) ・教科や学年によって軽重をつける必要はないと考えるため、比重を見直すべき。(3) ・学力検査の成績を重視すべきと考えるため、配点を小さくすべき。(3) ・1学年の評定を含める必要はないと考えるため、1年の評定は削除すべき。(2)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実技教科の比重が大きすぎる、又は学年間の比重が不相当なため、換算方法を見直すべき。(4) ・分かりやすくするために、圧縮しない計算を考えるべき。

(6) 選抜方法

現行では次のとおり。

【A選考】「学力検査の成績」：「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）、面接」を 5：5とする。

【B選考】「学力検査の成績」：「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）、面接」を 3：7とする。

【C選考】「学力検査の成績」：「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）、面接」を 7：3とする。

各高等学校で次の7通りから選抜方法を決定する。

選抜方法	選考Ⅰ	選考Ⅱ	選考Ⅲ	実施学科数（R3）
①	A選考 100%			69 (59.0%)
②	A選考 70%	B選考 30%		14 (12.0%)
③	A選考 70%	B選考 20%	C選考 10%	20 (17.1%)
④	A選考 70%	B選考 10%	C選考 20%	4 (3.4%)
⑤	A選考 70%	C選考 30%		6 (5.1%)
⑥	A選考 70%	C選考 20%	B選考 10%	4 (3.4%)
⑦	A選考 70%	C選考 10%	B選考 20%	0 (0.0%)

・回答の数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	120 (88.9%)	57 (87.7%)
変更すべき	14 (10.4%)	8 (12.3%)
無回答	1 (0.7%)	0

・「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜方法が分かりづらく、定員割れの学校も多いことから、シンプルにするべき。(7) ・より学力検査を重視すべきと考えるため、また、過年度卒業生のために、C選考を中心とすべき。(3) ・ABC選考のどれで合格したのかを開示すべき。(2)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のABC選考が有効に機能していないため、よりシンプルな選抜方法とするべき、又は、各校で比率を設定すべき。(4) ・店員割れの学科が多いため、A選考のみでよい。(2) ・特色化枠を導入すべきと考えており、一般枠はシンプルな方法とすべき。

4 二次募集

〔 現行では次のとおり。〕

- ・欠員が定員の10%以上の学科で実施する（欠員が10%未満でも学校の判断で実施できる）。
- ・検査内容は、調査書、面接、小論文又は作文

・回答の数（割合）

	高等学校
現在のままでよい	60 (92.3%)
変更すべき	5 (7.7%)

・「変更すべき」の主な内容

高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減少しており、実施しても志願者がいない場合が多いため、二次募集を実施することとする欠員の割合を見直すべき。(3) ・一般入試を受検していることから小論文又は作文の実施は不要と考えることから、検査内容を調査書と面接のみとすべき。
------	---

5 その他

中学校

- ・推薦受検者は、実績をもとに推薦に応募するので、〇〇の部（同じ部でなくてもよい）に入部するという原則として条件付けしてもよいのではないか。
- ・推薦合格者のテストの点数も開示してほしい。
- ・TOEFL、iBTのような、入試におけるICT活用の可能性
- ・高等学校就学支援金等により、県立高校と私立高校の経済面による差が小さくなってきている。県立高校において、さらに魅力ある、特徴ある学校づくりが必要であり、そのことは入試にも大きく影響すると思われる。多様な選抜の機会と内容を大きく見直すことを期待したい。
- ・推薦入試で入学してほしい生徒への高校側の対応で、受検すれば合格するのかもしれないのかはつきりせず、中学校としては、生徒への進路指導に支障をきたす。
- ・調査書の記載要領を、具体的に示してほしい。中学校としては、より簡潔な形であることが適切な記載内容となると考えます。
- ・現在検討中だと思いますが、推薦入試について、選抜基準を学校部活動に特化することで、中学校の部活動の在り方が十分に改善できないと痛感しています。
- ・本県の全日制の倍率は0.8倍程度で62校中46校が定員割れであり、転科合格を含めれば落ちる人はほとんどいないのが現状である。要するにほとんどの高校で選抜という機能は失われると感じている。このような現状のもとでは、多様な評価による選抜方法を工夫することは大切だとは思いますが、それよりもみんなが公平感を感じる単純な選抜方法を工夫することも大切ではないかと思っている。
- ・高校入試が中学校の指導に与える影響はかなり大きいと思います。また、少子化のために定員割れしている学校、学科があるという現状です。将来の生き方について考え、高校入学後そして卒業後の自分の在り方について考えさせることを重視した方法を検討していただくといいのではないかと個人的には思います。
- ・子どもの数が減少する中、私立高校進学者が増加している。県立高校の魅力が伝わってないような気がする。
- ・推薦入試の必要性を検討すべきである。
- ・私立高校のほとんどで、推薦制度は自己推薦となっており公立推薦との制度の違いが大きいと感じている。公立推薦への保護者の理解も自己推薦の考えに立っており、校長推薦を理解してもらおうのが難しい現状がある。
- ・学校の部活動以外の団体に所属して活躍する生徒が増えてきているということが改善を行う上で考慮しなければならない点だと思う。
- ・多くの高等学校が定員割れをしている状況で、現行の入試制度が機能しているとは言えないと思う。高等学校再編計画と併せ、根本的な見直しが必要であると考えます。
- ・今後の取組だとは思いますが、キャリアパスポートを選抜の視点として検討してもよいと思う。
- ・中学校、高等学校、部活動関係者、各種競技団体、私立高校との関係等、多くの連絡調整が必要な業務であるととらえております。中学生にとって、これからの岩手、日本を動かしていく、社会を創造していく人づくりという大きな視点で仕事をされていることと推察いたします。

- ・推薦入試検査が平等ではないという理由から、なくすべきだと考える教職員もいる。推薦入試検査を実施するのならば、全ての生徒が2回受けられる内容にするべきだという意見があった。
- ・可能であれば、選抜方法のA選考、B選考、C選考等の開示をしていただければ、ありがたいです。
- ・入学願書の様式（全体的な見直し）、簡略化が望ましい。
- ・高校の先生方はどんな生徒を求めているのか。
- ・推薦入試制度を残すのであれば、これまでのB資格と優れた人物性など、旧制度時のように、他の生徒に「どうしてあの人が推薦合格なのですか」という不公平感を生むもので無いことを願う。
- ・調査書の特別活動の記録を項目化し、中学校の規模などに左右されないような客観的なものにしていただきたい。
- ・学校の部活動が任意加入となり、地域の団体に所属してスポーツ活動や文化活動をする生徒が増えていくと考えられます。その際に所属している団体での成績などを推薦の基準項目に入れてもよいのではないのでしょうか。その際に、学校ですべての結果等を把握することは難しいため、条件を満たしているかを確認する方法が必要となってくると思います。

高等学校

- ・追検査を1カ所で実施できないか。各校の面接のみ、担当がその場に行って実施する。
- ・各教科の検査の間の休憩時間がもう少し長いと、不測の事態にも対応できる。昨年度はコロナ対応でということだったが、運営しやすい時間割であった。
- ・入試は可能な限りシンプルにした方が良いです。部活動任意加入も踏まえ、推薦入試はやめた方が良いと考えます。一方、高校の特色ある学校づくりは推進していく方向でしょうか。一般入試日程で特色枠をつくってはいかがでしょうか。生徒に特色枠を利用するかどうか選ばせれば良いと思います。
- ・推薦入試が、中学校にとって「多少、成績が悪くても、部活を頑張っていれば合格できる手段」となっていないか。
- ・本県の学力向上を期待するならば、一般入試制度に統一して「中学校での学力形成が大切」というメッセージを強く発信するべきではないか。
- ・推薦入試における中学校からの提出書類の中に、キャリアパスポートの写しなどがあってもよいのではないか。
- ・推薦入試について、受検生の部活動の実績について、調査書と志願理由書の記述に相違がみられることがある。現状では証明する資料の提出を求めていることから、実績（部活動の成績等）が正確なものなのか判断できない状況である。
- ・専門学科にとって、応募資格Bによる推薦入試は重要であると考えています。しかし、応募資格AとBを同列に評価することは非常に困難であるため、本校では、応募資格Aのみとしているところです。よって、各学校が応募資格AとBそれぞれの募集定員を決めることができるようになることを望みます。
- ・小規模校において生徒把握のために面接は必要、実施をお願いしたい。面接が実施できない場合でも、参考として自己アピールカードを提出させてほしい。

- ・採点業務の正確性、何よりもミスが発生しないようにすることや、教員側の業務負担を考えるとマークシート等が導入されてもよいのではないかと。
- ・受検生、保護者、中学校関係者はじめ、誰もが理解できる入試制度に改善することが重要だと考えます。
- ・推薦入試における専門高校の各学科の合格割合を定員の20%に変更できれば、中学校側も出願しやすくなると考えます。1校の中学校から同じ学科に合格定員を超える応募がある場合や、同じ学科に出願が集中することもあります。中学校側では生徒の希望で出願していますので、合格割合が応募資格AとBあわせて定員の20%になると中学生の希望も叶いやすくなると思われます。
- ・一部の高校または学科を除き大部分の高校が1倍を割っている。そうした状況のため本県の入試は合格者を選抜する意味合いより、受け入れが可能な生徒かどうかを判定する意味合いが強くなっている。そのことを踏まえると、入試方法の弾力化を検討しても良いのではないかと。一般選抜は規模が大きく一般教科の学力重視でもいいが、推薦入試については各校の特色を活かした入試を検討してはどうか。
- ・推薦入試においては、多様な生徒を多様な評価によって選抜することは確かではあるが、応募資格Aにあるようなスポーツによる推薦と特別活動やその他校内外の活動による推薦とを並行して評価することへの難しさは感じる。スポーツによる推薦においては継続義務がないところも、推薦入試の目的にずれがあるような気がする。
- ・定時制課程成人枠について、要項や受検票の改善をしていただきたいと考えている。また、推薦や二次募集ではなく、一般入試の中で定時制課程成人枠を行っていることから考えると、作題や採点基準等ある程度県で統一されたものがあった方がいいのではないかと。今後検討していただきたい。
- ・追検査の実施などで、入試業務は増加しており、推薦入試の廃止も含め見直しが必要であると考えています。部活動が任意加入となっていますが、当面は、部活動で高校を志望する生徒も考えられ、そのような生徒への配慮も必要かとも考えます。
- ・中学校からの調査書の評定等のデータ提出（できればオンライン出願）。
- ・採点業務の簡素化（マークシート、C B Tの採用等）

Ⅲ 県立高校入試改善の論点（たたき台）

1 生徒の多様な学びを評価するための入試制度及び日程について

【課題】

- ・ 県立高等学校における特色ある学校づくりの推進のため、また、多様な評価による選抜を実現するために推薦入試を行っている。推薦入試では、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の実績を評価しているが、義務教育段階における多様な学びにより受検生が身に付けた能力を適切に評価するという面では改善すべき点もある。生徒の多様な学びを適切に評価する入試となるように見直しが必要である。
- ・ 入試日程について、1月上旬から3月末までの高校入試期間は、志願者だけでなく、中学校及び高等学校の授業や行事にも影響がある。学力向上の観点からも、中学校及び高等学校において特に3月に落ち着いて授業が実施できる時期を増やすように見直しが必要である。
- ・ 二次募集の合格者発表が3月末となっているため、志願者の入学準備及び入学手続きのための時間が充分とは言えない。また、通信制入試が4月実施となっていることもあり、年度末の入試に係る期間の見直しが必要である。

【論点】

- ・ 生徒の多様な学びに対応し、各高等学校の特色や魅力を活かした入試を、どのように行うか。
(出願の基準、応募資格、検査内容、名称等をどのようにするか。)
- ・ 入試日程全体をよりコンパクトにするために、どのようにするか。

2 その他

【課題】

- ・ 一般入試では、全受検者に対して面接を実施しているが、事前提出書類の有効活用や1人当たりの面接時間の確保の面から十分とは言えない状況にある。また、選抜方法について、より各高等学校の特色を生かせるように見直しを求める声もある。検査内容や選抜方法について上記1の検討とあわせて見直しが必要である。
- ・ 志願者又は中学校が提出することとしている書類のうち、有効に活用されているとは言い難いものがあるならば、志願者、中学校、高等学校の負担を軽減するためにも、廃止も含めた見直しが必要である。

【論点】

- ・ 一般入試の検査内容（学力検査、面接等）や選抜方法（ABC選考等）を、どのようにするか。
- ・ 選抜の資料として必要な書類は何か（他の論点の検討を通じて）。

IV 今後の予定

○ 県立高校入試改善検討委員会（第2回～第5回）

	日 時	場 所	内 容
第2回	令和3年9月16日（木） 14：00～16：00	岩手県民会館 第3会議室	・各論点について検討
第3回	令和3年12月16日（木） 14：00～16：00	岩手県民会館 第3会議室	
第4回	令和4年5月	（盛岡市内）	・総合的に検討 （提言案について検討）
令和4年6月～7月 パブリックコメント実施			
第5回	令和4年8月	（盛岡市内）	・提言について検討

○ 第5回終了後の予定

令和4年9月 提言を県教育委員会に提出

令和4年10月～令和5年3月 新入試制度について県教委で検討、公表

令和5年度～令和6年度 周知期間

令和7年3月 新制度による入試実施